

イラン

2021年11月24日
海外調査部・テヘラン事務所

2020年のイランの実質GDP成長率は、米国による経済制裁や新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、1.5%のプラス成長となった。一方で、国内経済は物価上昇や高失業率など厳しい状況が続いている。2020年の貿易は、輸出入（非石油部門）ともに対前年比で10%以上のマイナスとなった。経済制裁の影響により前年に大幅な減少となった日本との貿易は、日本からイランへの輸出は前年からの揺り戻しで増加したものの、輸入は鉱物性燃料が全減となったことで、97.1%減とさらに大きく落ち込んだ。

■プラス成長も、インフレなど混乱が続く国内経済

イラン経済は、2018年以降の米国の経済制裁に加えて、新型コロナの影響を大きく受けたものの、2020年のイランの実質GDP成長率を、IMFは1.5%、世界銀行は1.7%と発表した。世界銀行はプラス成長の背景について、イラン経済が過去2年間で既に12%も縮小していたことから、新型コロナによる生産の損失が他国ほど顕著ではなかったとしている。また、通貨リアル下落により国内生産品の競争力が高まり、製造業が非石油部門の回復を牽引し、特に第3～4四半期は、石油部門と非石油部門ともに予測よりも景気回復が進んだとしている。

為替レートは、市場レートが2020年10月18～19日に1ドル=31万9,000リアルとなり、1ドル=4万2,000リアルの公定レートとの乖離が約7.6倍にまで広がった。2021年4月からは、核合意「包括的共同行動計画（JCPOA）」の立て直しや、米国による対イラン経済制裁の解除などを話し合う合同委員会がウィーンで開催された。これらの動きに関し、中東や欧米各地で前向きな報道がなされた2021年5月ごろは1ドル=21万5,000リアル前後で取引されていたが、2021年8月31日時点では1ドル=27万3,000リアル前後で取引されるなど、引き続き不安定な為替相場が続いている。

通貨下落の結果、輸入価格の上昇などのインフレ圧力が高まり、イラン統計センターが発表した2020年度（2020年3月20日～2021年3月20日）の消費者物価上昇率は、通年で36.4%となった。2020年は特に後半以降に大きく上昇し、2020年9月以降は40%超で推移した。2021年に入ると6月まで40%台後半が続き、7月23日～8月22日も43.2%と、引き続き高い値となっている。特に2020年11月ごろからは食品・飲料品の値上がりが激しく、前年同月比で50%台後半～60%を超える月が続いている。

主要産業である自動車は、国際自動車工業連合会（OICA）によると2020年のイランの自動車生産台数は88万997台となり、前年比7.3%増となった。米国の制裁が再開された2018年の生産台数が前年比27.7%減、2019年も25.0%減と大きく減少していたことから、わずかに揺り戻したとみられる。

2021年8月5日には、穏健改革派のハサン・ローハニ大統領に代わり、保守強硬派のイブラーヒーム・ライシー大統領が就任した。汚職撲滅や新型コロナ対策に加え、インフレの抑制と人々の生活

保障を新政権の最優先事項として強調している。新型コロナ拡大は、人との接触の多いサービス業など、多くの労働集約的な仕事や収入に深刻な影響を与えている。IMFは2020年の失業率を10.8%、2021年は11.2%と推計（2021年4月時点）しており、経済状況の改善が喫緊の課題となっている。

■輸出入ともに前年度比減

イラン税関発表の統計によれば、2020年度の貿易総額および上位5カ国との貿易額は、非石油部門（石油・ガス製品は含む）の輸出総額が前年度比15.4%減の349億9,800万ドルだった。一方、輸入総額は11.1%減の388億9,300万ドルとなり、ともに10%以上の減少となった。

表1 イランの主要国別輸出入（非石油部門）（通関ベース）

（単位：100万ドル、%）

	輸出					輸入			
	2019年度		2020年度			2019年度		2020年度	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	9,520	9,077	25.9	△ 4.7	中国	11,211	9,843	25.3	△ 12.2
イラク	8,992	7,448	21.3	△ 17.2	アラブ首長国連邦	8,913	9,758	25.1	9.5
アラブ首長国連邦	4,501	4,662	13.3	3.6	トルコ	4,996	4,400	11.3	△ 11.9
トルコ	5,046	2,537	7.3	△ 49.7	インド	3,676	2,140	5.5	△ 41.8
アフガニスタン	2,361	2,308	6.6	△ 2.2	ドイツ	2,103	1,851	4.8	△ 12.0
日本（56位）	n.a.	17	—	—	日本（27位）	n.a.	102	—	—
合計（その他含む）	41,370	34,998	100.0	△ 15.4	合計（その他含む）	43,735	38,893	100.0	△ 11.1

[注] ①イランの会計年度は通常、3月21日ごろ～翌年3月20日ごろ。2019年度は2019年3月21日～2020年3月19日、2020年度は2020年3月20日～2021年3月20日。

②輸出は非石油部門のみ（石油・ガス製品は含む）。③貿易条件は、輸出入ともにFOBとCFRが混在している。

[出所] イラン税関（2019年度は上位5カ国、2020年は上位10カ国と日本のみ入手）

貿易相手の上位5カ国をみると、前年度に引き続き2020年度も中国が輸出入ともにトップとなっており、輸出は4.7%減の90億7,700万ドル、輸入は12.2%減の98億4,300万ドルとなった。輸出相手は、中国以外はイランの周辺国となっている。3位のアラブ首長国連邦（UAE）が3.6%増となった以外は、いずれの国も減少した。特にトルコは49.7%減と大きく落ち込んだ。輸入についても、UAEが9.5%増となった以外は軒並み減少となり、インドは41.8%減と大幅な減少となった。

貿易相手上位国の品目別の内訳を相手国側の統計からみると、輸出相手国1位の中国は、多様な品目をイランから輸入しているが、主要品目の鉱物性燃料、鉱石などは大幅な減少となった。プラスチック・同製品、銅・同製品、有機化学品も減少した。一方、鉄鋼は大幅に増加した。イランの中国からの輸入では、有機化学品、ゴム・同製品、紙・板紙・製紙用パルプなどが大幅に減少している一方、原子炉・ボイラー等、鉄道用車両・その部分品などは増加している。

イランからの輸出額が大きく減少したトルコは、鉱物性燃料や鉄鋼、肥料などが大幅に減少した。イランの輸入元として大幅な減少となったインドも、多くの品目で減少しており、特に穀物、精油、調整飼料などが大幅減となったが、食用の果実、糖類および砂糖菓子などは増加した。

■引き続き制裁の影響を受ける日本との貿易

日本の「貿易統計（通関ベース）」によれば、日本からイランへの輸出額は、2018年に再開した米国による経済制裁の影響により、2019年に前年比90.5%減と大幅に減少した。しかし、2020年には揺り戻しを見せ、20.3%増の8,008万ドルとなった。

日本からイランへの輸出を品目別にみると、前年に99.9%減少した乗用車が全減となり、同79.8%減だった原料別製品が90.4%減、同86.8%減の化学製品が58.3%減とさらに落ち込んだ。一方で、原動

表2 日本の対イラン主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2019年		2020年		2019年		2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
一般機械	7,744	9,563	11.9	23.5	鉱物性燃料	1,096,256	0	0.0	全減
原動機	3,312	6,434	8.0	94.3	原油および粗油	1,096,256	0	0.0	全減
ポンプ・遠心分離機	410	794	1.0	93.7	化学製品	90	91	0.3	1.1
荷役機械	224	335	0.4	49.6	有機化合物	22	38	0.1	72.7
加熱用・冷却用機器	325	6	0.0	△ 98.2	医薬品	0	17	0.1	全増
輸送用機器	1,706	927	1.2	△ 45.7	原料別製品	28,861	21,291	63.1	△ 26.2
自動車	144	0	0.0	全減	織物用糸・繊維製品	28,828	21,276	63.1	△ 26.2
乗用車	142	0	0.0	全減	食品	18,509	11,800	35.0	△ 36.2
バス・トラック	2	0	0.0	全減	果実	7,972	5,232	15.5	△ 34.4
自動車の部分品	1,494	877	1.1	△ 41.3	魚介類	1,733	802	2.4	△ 53.7
原料別製品	17,239	1,651	2.1	△ 90.4	一般機械	6	0	0.0	全減
非鉄金属	15,514	0	0.0	全減	合計 (その他含む)	1,144,577	33,725	100.0	△ 97.1
金属製品	496	593	0.7	19.6					
紙類・紙製品	583	605	0.8	3.8					
化学製品	7,153	2,986	3.7	△ 58.3					
プラスチック	2,032	522	0.7	△ 74.3					
電気機器	5,567	26,856	33.5	382.4					
電気計測機器	1,804	1,815	2.3	0.6					
原料品	2,707	6,097	7.6	125.2					
その他	24,392	31,988	39.9	31.1					
科学光学機器	4,294	4,434	5.5	3.3					
写真用・映画用材料	4,123	9,070	11.3	120.0					
合計 (その他含む)	66,544	80,075	100.0	20.3					

[出所] 財務省「貿易統計 (通関ベース)」をドル換算

機が94.3%増となったが、金額は約640万ドルにとどまっている。

日本の輸入は、2019年に66.9%減の11億4,458万ドルとなっていたが、2020年は3,373万ドルと、さらに97.1%減の大幅減となった。2019年5月に制裁適用除外措置が打ち切られ、2019年は約11億ドル (構成比95.8%) だった原油および粗油が全減となったことが大きく影響している。前年には1.3%減にとどまっていた織物用糸・繊維製品も26.2%減と減少したものの、構成比は最大となった。

なお、進出日系企業は引き続き投資や現地でのビジネスが困難な状況にある。外務省「海外進出日系企業拠点数調査」によると、2020年10月1日時点でのイランの日系企業拠点数は27となり、前年同日時点の29から微減となっている。

主要経済指標

①人口: 8,415万人 (2020年)	2018年	2019年	2020年
②面積: 164万8,195km ²			
③1人当たりGDP: 7,555米ドル (2020年)			
④実質GDP成長率 (%)	△6.0	△6.8	1.5
⑤消費者物価上昇率 (%)	30.2	34.6	36.5
⑥失業率 (%)	12.0	10.7	10.8
⑦貿易収支 (100万米ドル)	32,635	7,155	3,234
⑧経常収支 (100万米ドル)	26,741	3,754	△709
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	n.a.	n.a.	n.a.
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	9,339	9,031	9,142
⑪為替レート (1米ドルにつき、イラン・リアル、期中平均)	40,864	42,000	42,000

[注] ①③⑤: 2019年以降は推計値、④⑥: 2020年は推計値
 [出所] ①③④⑤⑥⑪: IMF、②イラン外務省、⑦⑧⑩: イラン中央銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp